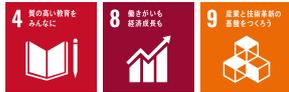


要請番号 (JL10624B06)

募集終了



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
フィジー	C203 養蜂		個別	新規	2年	・2025/1・2025/2・ 2025/3・2026/1

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

青年・スポーツ省

2) 配属機関名 (日本語)

ナサウ・ユース・トレーニングセンター

3) 任地 (シンガトカ町ナサウ) JICA事務所の所在地 (スバ市)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (バスで約 3.0 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

青年・スポーツ省が運営するユーストレーニングセンターは全国に5か所あり、その一つであるナサウセンターはシンガトカ町中心部から北東約6キロ、バスで15分ほどの場所に位置する、農業と木工の職業訓練を提供する機関である。ここでは失業者や学校を中退した若者に対し、自営や就職に必要なスキルを訓練することによって、セカンドチャンスを提供する役割を担っている。農業部門においては、1990年より同センター内を拠点としているOISCAからの支援を得て、有機農業にかかる職業訓練等も行っている。日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力により、2022年12月に新校舎と教室備品が整備された。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

農業コースでは、農村部で自活できるスキルを中心に、有機野菜栽培や家畜飼育など、多岐にわたる内容を提供している。2014~16年にはシニア海外ボランティアが派遣され、養蜂の指導が行われていたが、担当者が退職したことや、2016年のサイクロンによる巣箱の壊滅的な被害が原因で、その後は停滞していた。農業省によると、フィジーの気候は養蜂に適しており、ハチミツの生産量は伸びる余地がある。また生活習慣病が社会問題化するなか、ハチミツがもたらす健康効果が注目されており、養蜂は大きな収益を生み出す可能性を秘めている。しかし、その指導を行える人材に限られており、スタッフの育成と生徒への指導が期待され、JICA海外協力隊の要請に至った。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

センターの職員とともに、以下の活動を行う。

- フィジーの気候・風土に合った養蜂技術確立への提案を行う。
- 配属先スタッフが農業コースにおいて養蜂のノウハウを指導できるよう助言を行う。
- 授業実習として生徒への指導を行う。
- 養蜂ビジネスに関する助言をし、零細企業振興や農業の副業として成立するような支援を行う。
- 木工コースと協働し、巣箱の作製を指導する。

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

オフィススペース、巣箱3箱

4) 配属先同僚及び活動対象者

【配属先同僚】

農業担当講師3名(男性、30~40代)

【活動対象者】
18～35歳の生徒

5) 活動使用言語

英語

6) 生活使用言語

英語

7) 選考指定言語

英語(レベル:C)

【資格条件等】

[免許/資格等]： ()

[学歴]： () 備考：

[性別]： () 備考：

[経験]：(実務経験) 2年以上 備考：配属先要望

[参考情報]：

- ・養蜂以外で家畜等の知識があるとなおよい

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]：(熱帯雨林気候) 気温：(20～35℃位)

[電気]：(安定)

[通信]：(インターネット可 電話可)

[水源]：(安定)

【特記事項】

住居は、配属先が提供する、敷地内にある寮となる可能性もある。寮の空きがない場合は近隣の町中央地域に居住し、バスでの通勤となる。

【類似職種】